

## 「人事を尽くして天命を待つ」

上智大学 法学部 法学科 徐 偉東

はじめに

日本へ来て1年半、上智大学法学部に何とか合格できた。日本で最も有名な早慶上智の一つに合格できたわけだが、いまだに実感が湧かない。

僕には、日本の企業に勤めて経験を積み、将来自分で起業したいという夢がある。だから最初は経営・国際関係を学びたかったが、最終的には法律の知識や論理的思考力が役立つと思い直して、法律を勉強することに決めた。

他人から見れば、僕の合格までの道のりは順風満帆に見えるかもしれない。しかし、僕の合格までの道のりは決して平坦ではなかった。

### 1. 高校2年の自分探し

僕は高校2年の時に朝日塾中等教育学校に転編入してきた。その時の日本語能力はN4レベルだったから、伝えたいことをクラスメイトにうまく伝えられなかった。環境が変わったことによるストレスとルールに対する認識の甘さから5月に問題を起こし、約2週間指導を受けた時も、先生方から色々な話をされたが、わからない言葉があった。ただ、本気でやり直すよという先生達の想いは伝わってきた。だから、僕は日本語を一生懸命勉強した。僕は文法事項を覚えることより単語量を増やす方を重視した。なぜなら、いくら文法を覚えても、言葉の意味がわからない限り、言語力を上げられずコミュニケーションできないからだ。具体的には、朝のSHR前に日本語のテキストや参考書、辞書を見たり、常にわからない言葉が出てきたら所構わず調べたりした。単語量を増やしたおかげで、周りの人が言っていることがどんどん分かるようになってきて、同級生の皆と仲良く、楽しい高校生活を送れるようになっていった。日本語でクラスメイトとの交流を深められるようになるのと、自分の日本語力の伸びが以前より速くなったとを感じるようになった。

### 2. 高校3年第1回EJUに向けて

楽しい時間はいつも花火のようにきれいに咲いて、そして消えていく。高2の前半で仲の良い友達が寮から出て行き、後半になって、また友達が帰国することになった。さらに、高2の最後に、交換留学生として来ていたタイの皆も交換留学期間が終わり、それぞれの学校に戻ってしまった。友達が一人、また一人と傍から消えていき、とても寂しく感じた。

僕は、寂しさを大学受験のための勉強で埋めることにした。高3の留学生に残された時間は日本人よりもっと少ないことに気づいたからだ。センター試験は高校3年時の1月だが、留学生にとってのセンター試験に当たるEJUは高校3年時の6月と11月。6月で良い成績を修めておいた方が出願できる学校が増えることも知った。進路を左右する大事なEJUの試験日がどんどん迫ってくるのだ。

僕の高2時の11月のEJUの成績は悪かった(日本語:246/400点、総合科目:76/200点)。次のEJUでより良い成績を修めるために、特訓を始めた。

まず、総合科目は、先生にお願いして補習をしてもらっていた。最初は週3回、放課後の補習をしてもらった。EJUの試験がどんどん迫ってくるにつれて、補習も週3回からほぼ毎日するようになった。直前期は放課後だけではなく、寮での夜学習の時にも補習をお願いした。補習では、先生から指定された「ハイレベル総合」テキストの指定範囲に事前に目を通して授業を受け、補習後に後ろについている問題や渡された過去問プリントに取り組み、テキストに載っていないことはテキストに書き加えて自分だけの参考書を作っていくようにした。最終的には「ハイレベル総合」テキストを3回から5回程度通読したことになると思う。

日本語の方は、自分でテキストや問題集などを利用して勉強していった。記述対策は、毎日国語や日本語の先生からテーマをもらって、学校が終わる前に作文を書いて先生に見てもらい、足りないところを指摘してもらうようにしていた。

直前の追い込みの時期、普段より倍、努力したおかげもあり、高3時の6月のEJUの成績は前回よりもだいぶ伸びた。日本語も総合科目も8割以上得点できた(日本語:335/400点、総合科目:165/200点)。

### 3. 大学出願に向けて

自分は賑やかな東京より、穏やかで人間味がある関西が好きなので、関西の私学で偏差値が最も高い関西学院大学の国際学部を志望した。先に述べたように、僕には将来起業したいという夢があるし、語学力に自信があるからだ。志望校を決めて無事に入学できるように、先生が大学情報を調べてくれるのを待つのではなくて、自分が先に大学のホームページを見たり、オープンキャンパスに行ったりして情報を集めるようにした。特に重視した情報は、まず志望校の募集要項に記載された情報、そしてホームページやオープンキャンパスで入手した面接でアピールできる情報だ。「慢心徐偉東注意」というメモをもらったことがあったが、この頃は、自分のEJUの成績と関学に合格した人の成績とを見比べた結果、合格を決して疑わず、慢心していた。

出願する際、志望理由書がとても大事だといわれている。だから、僕は志望理由書に特に力を入れていた。パソコンで作成すれば先生とのやり取りが楽なのだが、僕はパソコンで文章を打つのが好きではないので、手書きで1,000字ぐらいの志望理由書をおよそ10回書き直した。毎回何枚もコピーして色々な先生に見てもらって、添削してもらった。僕は志望理由書を書き直すことと出願材料を揃えることに2週間以上を費やした。

関学の出願が済んで合格を疑わなかった僕は、他の大学に出願する気がなかった。しかし、先生に僕ぐらいの成績で上智大学に合格した人がいるので上智大学にも挑戦してみようと言われたから、上智大学にもしぶしぶ出願した。本当は、最初面倒で嫌だったので上智大学に出願したくなかった。最後、出願することに決めたのは、その先生が煩わしいと

思わずに何度も話をしてくれた結果だ。今振り返ってみれば、本当にその先生への感謝の気持ちしかない。

#### 4. 面接練習

入試への準備段階に入った。入試の内容は大学・学部によって違う。それらは、それぞれの大学のホームページや募集要項に載っている。早めにお気に入りの大学を見つけ、パンフレットや募集要項を申し込むのがお勧めだ。

まず僕に迫ってきたのが関学の入試。関学の国際学部の場合、EJU の成績と面接しか必要なかったのだ。以前、朝日塾の面接練習は他校よりたくさんしてくれ充実しているという噂を聞いたことがあったが、本番が近づき練習をしてもらうようになったら、その噂は本当だと思うようになった。面接の練習は、教えてもらったことがある先生にもなかった先生にもしてもらえた。数多くの練習の中で、僕は自学していた頃には気づかなかった自分の日本語の間違いに気付いていった。また、日本語や EJU の勉強はがんばってきたが、文化祭やボランティア、各種イベントについてはそれほど頑張ってきたので、高校で頑張ってきたことなどを語るように言われたときに苦労した。英検、TOEIC などの資格も取っておいた方が受験に有利だったとも思う。悔やんでも仕方がないので、自分の中学・高校時代について事細かに先生に話しながら、自分のセールスポイントを探した。先生からの大事なアドバイスや自分が話すことに関しては面接ノートに書きこんでいった。僕は緊張すると早口になるので、先生から短くはっきりと大きな声で話すように何度も言われた。

#### 5. 初めての入試、失敗

しっかりと練習して臨んだつもりだったが、関学の面接試験当日は緊張した。その結果、自分の弱点を正直に話しすぎてしまった。

大学でアルバイトをしすぎて学力を落とす学生がいると試験官に言われたのに、アルバイトを頑張ると言ってしまうたり、短所を聞かれた際、自分は協調性にやや欠けると答えた上に、中国の高校在学中にアルバイトをした際、先輩の指示よりも自分が効率的だと思うやり方をしてトラブルになったりしたという具体例まで話してしまった。

入試後、金川駅まで迎えに杉原先生が来て下さったが、車内で杉原先生に面接内容を話したら、「自分の短所をなぜ強調した。『面接で大事なものは拡大コピーと縮小コピーだ』と言ったのに。落ちたと思う。」と言われ、疲れがドッと増したが、「それでもあの EJU の成績なら大丈夫だろう」と思い直した。

ところが、本当に落ちてしまった。普通は様々なレベルの大学に複数校出願すると聞いているが、僕の家庭はそれほど裕福ではないので焦った。

## 6. 専修大学へ慌てて出願、一路東京へ

関西学院大学に不合格だったので、腕試しで出願していた関学よりもレベルの高い上智大学法学部に合格しなければ、日本に人生をかけてやってきた意味がなくなると焦った。上智大学 1 校ではさすがに危険だったので、専修大学経済学部にも出願することを先生に相談した。お金がいる話なので出願を悩んでいたら締め切り直前になってしまった。1 日で志望理由書や学修計画書を先生と仕上げたのでミスがあるかもしれないということで、杉原先生に付き添ってもらって東京へ向かった。関西学院大学出願時に自分の頑張ってきたことをまとめてデータに残していたので何とか間に合った。

## 7. 上智大学合格へ向けて面接・小論文対策

起業するのが夢なので、最初は経営と語学にしか興味がなかったが、先生から会社組織や人事と法律との関係などの話を聞き、法律にも興味がわいてきて面接練習を再開した。

上智大学法学部の場合は、EJU の成績や面接試験の結果が良いだけでは合格できない。小論文試験があるからだ。EJU 日本語の記述試験では 45/50 点の得点だったが、曾根先生、杉原先生、森先生の小論文指導では厳しい結果が返ってきた。最初は日本語が読みにくく、無傷で生き残った文章は 3 行だけと酷評されたこともあったが、しっかり構想メモをしてから書くようにしたら得点が上がっていった。

小論文で書くネタの多くは、樋口裕一著「読むだけ小論文」から入手した。早くから NHK のニュースを見たり新聞をよく読んでおいたりすれば余裕があっただろうが、それほど確認していなかったため、ニュース検定の問題を貸してもらった。そして、読んだ内容が法的にどう問題になるのかについて先生と話し合った。当日の小論文試験では、先生と出題予想をしていた内の 1 つが出題されたこともあり、落ち着いて取り組むことができた。

## 最後に ～後輩へのメッセージ～

高校生活を送り大学入試に挑戦する中で、寂しいときやつらいとき、つまらないとき、苦しいとき、どうすればよくわからないときが訪れることがある。そのような時は、先生方に相談してアドバイスをもらいながら失敗を軌道修正してほしい。ただ、自分のことは自分でやる「自律」が大切だと僕は思う。自分で考えて、しっかり調べてから相談しなければ、先生方も的確なアドバイスができないと思うからだ。親や同じ言語を話す友達にばかり頼るのも、せつかく日本の朝日塾に留学してきたのにもったいないと思う。

尽人事听天命。やれることをやるべき時にやりましょう。

【文系大学志望者の徐がした勉強】

学年	主に勉強すべきこと	その他やるべきこと
高2	N2 日本語の読み書き音読トレーニング 通常教科の勉強 EJU 総合補習の予復習	日本人との会話 各種行事への積極的参加 大学探し オープンキャンパス
～高3 第1回 EJU	N1 日本語の読み書き音読トレーニング 通常教科の勉強 EJU 総合補習の予復習 過去問演習→テキストに書写	日本人との会話 各種行事への積極的参加
高3 夏～	日本語の読み書き音読トレーニング 面接練習	自分のこれまでの生活を振り返って面接ノートにメモ オープンキャンパス オープンキャンパス報告書
高3 2学期	志望理由書の作成・添削 出願書類の作成・添削 本格的面接練習 志望校受験(3校) 小論文作成・添削	日本人との会話 受験報告書作成 受験後面接による振り返り